

『「知る」からはじめる自分デザイン塾』

第1回
報告

26歳で起業した経営者が語る！ 社会課題と組織課題の交差点とは？

日時：6/11（土）

講師：合田文さん



株式会社TIEWA代表取締役、マンガでわかるLGBTQ+メディア「パレットーク」の編集長。

新卒で株式会社サイバーエージェントに入社し、ゲーム事業部に所属する。

その後、『未来を変える80人—僕らが出会った社会起業家（ソーシャルアントレプレナー）』という本の出会いがきっかけで、株式会社TIEWAの設立に至る。

「ジェンダー平等の実現」などの社会課題をテーマとした事業を行い、共通点でつながる男性同士向けマッチングアプリ「AMBIRD」の運営や、広告制作からワークショップまで、クリエイティブの力で社会課題と企業課題の交差点になるようなコンサルティングを行う。また、2020年には、Forbes 30 UNDER 30 JAPANに選出された。

LGBTQ+など、近年よく聞かれるようになった、マイノリティ（少数派）とマジョリティ（多数派）。全体として、どう変わっていくのがよいか、という話題では、マジョリティが変わった方がよく、**バリアフルレストラン**の例を出しながら、「誰かが我慢を強いられるより、みんなが暮らしやすい社会やルールにしていく方がよい」とお話しくださいました。

※バリアフルレストラン

車いすユーザーが多数派となった場合の世界を体験できるレストラン。

天井は低く、椅子もないので、二足歩行には過ごしにくい。

また、アンコンシャスバイアス（無意識の思い込み）の話題では、女性だから男性が好きだろう、小さな子どもがいるから責任の重い仕事は振らないようにしようなど、無意識に当たり前に思っていること、また配慮のつもりが本人の意志を無視してしまう結果となってしまうことなど、気づききっかけになった方も多いのではないのでしょうか。

他にも、社会が抱える貧困や気候変動などの問題と、企業が抱える人材確保やコスト改善などの問題とを掛け合わせて取り組む話など、新しい視点でのたくさんのご講話に、大変学びの多い講座となりました。

女性として生まれて、精神障がいを抱えて、この社会が変わればよいと思うことはたくさんあったが、どのようにすればいいのか分からなかった。今回の話を聞いて、参考になる部分もあり、励みになった。（20代女性）

合田さんの感性に好感が持てた。（50代男性）

新しい考え方や、視野が開けた。（60代男性）

たくさんの年代の悩みや質問からも色々考えることができてよかった。（20代女性）

参加者の声



講師自身が自分のバイアスを理解されていてよかった。（60代男性）

以前からパレットークを拝見していました。ジェンダー平等やアンコンシャスバイアスとはつきにくい話題ですが、マンガであれば気軽に触れられると学びました。（30代女性）

我々世代が目覚めたジェンダー平等意識が若い世代にどう受け止められているか興味があったが、合田さんの取り組みを聞いて、より広く深い活動に進化してとてもうれしかった。（70代女性）